

「屋仁小学校の屋仁棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立屋仁小学校

2 学年・人数

全校児童（計16人）

3 場所・日時

(1) 練習の場所・日時

屋仁小学校体育館（9月）、運動会前の体育学習（10月）、放課後（11月）

(2) 発表の場所・日時

屋仁小学校秋季大運動会（10月）笠利フェスタ伝承芸能発表（12月）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

屋仁棒踊り（やにぼうおどり）

(2) 由来

屋仁棒踊りは、薩摩川内の棒踊りが伝わったものであるが、屋仁校区郷土教育資料集「屋仁田袋」には、このような言い伝えがあると書かれている。

130年ほど前の明治12年。新しい屋仁小学校の校舎を造るために、川内から大工さんがやってきました。十分な大工道具や木材がない中、屋仁の人々と協力して立派な校舎を造り上げました。完成のお祝いの時、大工さんたちが川内の棒踊りを披露してくれました。その時の踊りが、とても勇ましく、大工さんたちへの感謝の気持ちもあり、屋仁でも踊り続けようと大工さんに教わったのが始まりである。

その後、屋仁棒踊りも長い間踊られなくなっていたが、30年ほど前から復活し、運動会等で子どもたちが披露するようになった。

(3) 構成等

5尺棒を持った4人が1組となり正方形の隊形で踊る。隣同士で棒を重ね合わせたり、相手が振り下ろす棒を受けたりする踊りである。唄は、歌詞として残っており、主に低学年児童が歌を担当する。

5 保存会や地域との連携の具体

もともと地域の伝承踊りとして伝えられてきたが、伝承者の高齢化、人数の減少により、児童への伝承につながった。学校の教育活動としては位置付けておらず、子ども会の活動として引き継がれている。

放課後に子ども会あるいは地域の方が、児童への指導を行っている。十分な練習時間は確保できていないが、先輩が後輩に教える姿が見られる。運動会当日は、中学生も入って地域の方々に披露している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

現在の教育課程では時間を生み出すことが難しいため、屋仁棒踊りは、子ども会や地域が主体となって継承している。子ども会育成会や地域の方々の時間に合わせた練習となるため、練習時間帯が不規則である。学校職員も踊りの練習に参加し、学校の中でも練習が可能となるように体制を整えつつある。

屋仁校区の子ども会は、中学生も対象となっている。日頃から小・中の関わりが深く、中学生が小学生に踊りの指導を行う体制を構築されている。児童・生徒数の減少に伴い、棒踊りの披露の機会や踊り手の確保を考えていく必要がある。

7 取組の様子



いよいよ棒踊りの開始（運動会）



中学生も入って踊りを披露



練習した成果を発揮（笠利フェスタ）



唄で盛り上げる下学年

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童より】

「4年生になって、初めて踊りました。」「カッコいい姿にあこがれていたんで、うれしい。」

「唄だけでなく、早く踊りたい。」「もっと練習して上手になりたい。」等の感想

【指導者より】

子ども会活動の中の一つとして位置付けている。中学生も参加してくれるので、大変ありがたい。指導者をさらに増やしていけるとよい。

【地域の方々より】

子どもたちが一生懸命踊る姿が嬉しい。運動会だけでなく、他の行事でも踊る機会があるといい。多くの種目に出場する子どもたちの姿に感動する。

袴を着て踊る姿は、運動会と違ってより一層迫力がある。